

THE KANSAI UNIVERSITY BULLETIN

Osaka, Dec. 30th, 1956. No. 298

關西大學學報

昭和31年12月 第298号

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可
昭和三十一年十二月三十日発行（毎月一回三十日発行）
通巻第二九八号



昭和三十一年度大学一覧の表紙

關西大學學報局

飛驒の学術調査

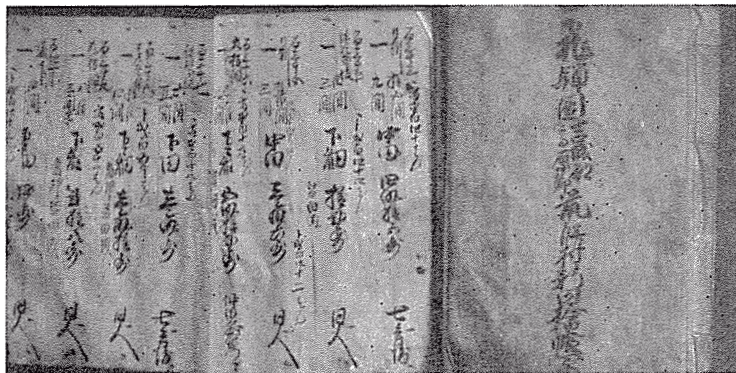
岐阜県吉城郡上宝村

春原 源太郎

「飛驒枕発句集」に

苗代の鶺鴒るや峠から 江鶴

の句がある。飛驒は山村である。しかし



飛驒村地帳

現在では決して僻地ではなく、三階建の村役場がある進んだ文化農村である。

「斐太後風土記」などによると稗の産高が米の数倍とする村が多いので、そんな智識で稚蚕共同飼育をやっている村を観察することは誤りである。たゞ消滅しつつある昔の文化が残っていることを調べ、それは、従来僻地といふ觀念のために学術調査が行われていなかったために明かにされる機会のなかつたことが明らかにされるであろう。調査の結果はまとめて報告されることになっているので予定されていた問題外のことについて余聞を報告する。

一

上宝村役場には元禄検地帳の外に安永文化、天保の検地帳がある。この地方の検地帳には田畑屋敷の外に稗田、焼畑があつていかにも山村らしい。水田に作つた稗を初めて見た学生もあつただろう。問題になつたのは金森家の移封を慕つて百姓が見送を申出た程の私領から幕府直轄となつた直後の元禄検地と安永の百姓一揆直後の安永検地であろう。村の中



学校の礼法室には本郷村善九郎召捕の図が義民を偲ぶかの如く掛けられている。

安永の飛驒百姓一揆は時の代官大原彦四郎の山年貢取立が原因と伝えられているが、これについては既にいろいろ発表されているので安永検地に現れたところを見ると

一、飛驒国吉城郡高原郷鼠餅村地改帳

(安永三年九月)

元高 七斗六升八合

反別 壹反廿九步

上田改耆反式畝廿三歩 七斗代

高八斗九升四合

二、同 笹嶋村地改帳(同)

元高 六斗四升八合

反別 貳反壹畝拾八歩

中畑改貳反七畝拾八歩 三斗代

高八斗貳升八合

など、元高と検地改高が記入されているが、田畑ともに高反別ともに約二割増の基本方針で行われたことが明らかである。ただ余り小さい田畑では増すこともできなかったと見えて笹嶋村地改帳に

元高 四升貳合

反別 廿五歩

中稗田改廿五歩

高四升貳合

五斗代

など増加のできなかった例もある。

この時代の測量技術から言つて、堅横の間尺を積算する矩形測量で

一、吉野村新田検地帳(天保四)

山田貳畝六歩 長拾貳間 庄兵衛

高四升四合 横五間三尺六寸

などと記載されている正確なものであるが、六尺以下切捨の検地と比較して尺寸まで出した嚴重なものである。

百姓一揆のあつたのは安永二年(一七七二)十月から十一月にかけてであるから、右の検地はその翌年に当る。これで見ると百姓一揆は完全な敗北に終つてゐる。

この百姓一揆では押よせてくる百姓の強訴を妨ぐのに先例がないので早打で江戸まで指令を仰いだために間に合わなかつた。

つたという江戸時代の形式主義の話題が伝へられている。(辻善之助、日本文化史)

二

僻村では他郷との交際が不便であるために村内婚が多く、そのために血族婚が多いというのが普通の観方がある。実証資料は学生諸君の報告に譲るとして、双六谷では従兄弟姉妹の結婚がお互に知り尽した間柄で最適だといふ老人の強い意見があり恋愛を不良視するものもあつた。

村役場に保存されている明治七年以後筑摩県と称した頃の戸籍によると村内婚、血族婚にはかへつて回避の形態が見られる。

この村の中心といわれる在家の明治七年の戸籍で婚姻、養子を調べてみた結果



蚊火を腰につけた農夫

によると村内婚が三件村外からの入嫁が十二件、出嫁、養子には高山まで出ている例がある。

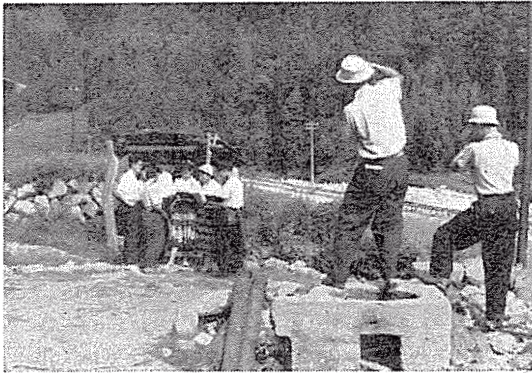
蔵柱で幕末の頃毛見に來た役人接待費の入用帳を見たが、高山まで酒、豆腐などを買いに走つた人の使ひ賃が一錢五厘と書いてある。越中から高山へ通ずる道で蔵柱から高山まで約五里、往復十里である。一錢五厘の使ひ賃で往復した当時の人が高山の人と婚姻することも不思議ではなく、婚姻圏も現代人が頭で逆算する程狭いものでなかつたことも理解される。

三

郷蔵の保存されているものが少くなつた。郷蔵というのは村内の年貢米を収納し、領主の命によつて廻米するまでの間保存するために村の費用で建てた貯蔵庫である。従てその修理や敷地の年貢米は村民の負担である。江戸時代のもので現存するものを見る機会は少いが、蔵柱には中を二階に造つた立派な郷蔵がある。

この地方の人達は蚊火といふものを使う。田畑の草取り耕作に蚊を妨ぐためのもので、葉とぼろぎれを合せた二尺余の腰刀の如き形のものゝ先へ点火して出かける。行動の妨げにならず適当に後ろで燃えるようになつている。上下衣自織の麻衣着た姿は民俗資料として保存方法が講じられないと滅びてしまふであらう。民俗資料よりも大きく消えるのに僻地

村の崩壊過程が見られるのは金木戸の平家村である。こゝの人達は平家の末孫と信じているが、こゝは部落というよりも現在では僅かに残つた二軒だけで、昔を偲ぶ神社もある。四十年前程までは十軒の一部落で、うち二軒は遙かに遠望できる山腹の草原にあつたが、猿王子の伝説を残して先に山をおり、次々と山を捨てた人達で、鎗で熊をしとめたときの牙を印籠につけた七十二才の老人は崩壊してゆく村の歴史を語ってくれた。



調査班を取材する記者

そこから尾根伝ひに二時間程で山吹の部落に着くが、こゝは本家だけで分家のない部落で分家するだけの耕地がないか

らだといふ。従て同姓の家はなく、このあたり嫁は下から上の部落へ嫁ぐものはなく、上から下の部落へ下りるといわれている。

× ×

今夏の学術調査は報導機関に期待され現地での各社通信部はもちろん新日本放送の田村氏、朝日新聞の橋氏など調査団と行を共にし田村氏の現地録音はNJBで放送され、朝日にも報導された。出発に當つて毎日新聞の木谷、林、府庁の寒川、裁判所の竹沢各先輩の配意、現地では県下在住校友篠田忍成(昭七)塚本義明(昭九)野瀬邦之(昭二八)先輩など後輩のために指導配慮されたことは感謝にたえない。

リュックを背に数時間歩行以外に交通機関のないところで実際の調査に當つた想ひ出話は尽きないが、報導陣にねらわれた調査班のスナツプはカットの写真によつて御覽を乞ふ。(評議員)

昭和三十一年十二月三十日発行

關西大學學報 第二九八號

編集兼 久井 忠雄
発行人 大阪府北区川崎町三八

印刷所 株式 印刷所
ナニワ 印刷所

電話(35)七二七一番
(七二八〇番)

發行所 關西大學學報局
大阪府大淀区長柄中通二丁目

電話堀川(35)二〇七二番
振替大阪二六七七二番

学内報

東京連絡本部を開設

十一月十五日(木)開催の理事会で、学校法人関西大学東京連絡本部を開設することに決定した。

なお、東京連絡本部長には商学部板橋菊松教授が委嘱され、また本部は左記に置かれる。

東京都中央区日本橋本町四丁目二番地

高橋教授渡欧

文学部高橋盛孝教授は、昭和三十一年



大阪駅頭の高橋教授

度在外視察研究員として、十二月二日(日)大阪駅発十二時三十分「はと」号で出発、四日午後七時羽田空港よりノースウエスト機で渡欧した。

矢口孝次郎、魚澄惣五郎両教授

日本学術会議会員に当選

学会の総選挙というべき日本学術会議

第四期会員選挙の開票が十二月十一日

(火)東京上野の同会議室で行われ、学術会議中央選挙管理会から開票の結果が発表されたが、本学から立候補していた経済学部矢口孝次郎教授が三部(経済)に文学部魚澄惣五郎教授が一部(文学)にそれぞれ当選した。

教授の諸活動

学会出張

◇商学部河村宜介教授は、十月十九・二十両日、同志社大学における日本交通学会に出席、「観光政策の問題点」と題して研究報告を行った。

◇短期大学部橋田慶蔵教授は十一月十九日より二十三日まで東京における電気通信学会大会に出席。

講演

「なにわ賞」受賞記念

文学講演会開かる

文学部末永雅雄教授は、大阪府教育委員会から本年度の「なにわ賞」を受与されたが、既受賞者の文学部石浜純太郎、魚澄惣五郎両教授と三氏の受賞を記念して、十一月二十四日(土)午後一時半より大阪府婦人会館に於て、本学主催、大

阪府教育委員会後援のもとに行われた。

講演者及演題

富永伸基について

教

授 石濱純太郎

(才四回受賞者)

瀬戸内海とその周辺

教

授 魚澄惣五郎

文学博士 (才三回受賞者)

最近調査の府下の古

教授

末永雅雄

文学博士 (本年受賞者)

出版物

越後専任講師の

力作推薦する

月刊経済専門誌「経済評論」編集部が、過去一年間(自一九五五・十一至一九五六・九)における経済学研究分野の力作と認められるものをアンケートにより調査した結果を「十二月号」に掲載しているが、その中に本学経済学部越後和典専任講師の論文が左の如く推薦されている。

越後和典 日本造船業の史的分析

関大経済論集一九五六・五

因みに、同アンケートで推薦労作を掲載する大学関係の雑誌を挙げると、東大社会科学研究、一橋大一橋論集、同経済研究、慶大三田学会雑誌、中大経済論集、法大経済志林、専大論集、立大経済学研究、福島大商学論集、東北大経済学、北海道大経済学研究、京大経済論叢、同人文学報、神大経済学部研究年報、阪大経済学、関大経済論集、九大経済学論集などである。

海外の大学より

法学者国際委員会より

図書寄贈

くわにある法学者国際委員会(International Commission of Jurists, The Hague)から、この程左記図書を寄贈して来たので、本学より「法学論集」を統いて寄贈し、図書の交換を行うことになった。

Report of the International Congress of Jurists, 1955.

Bulletin of the International Commission of Jurists, No.4, March, 1956.

アメリカ国会図書館より

図書寄贈

本学と学術機関紙及び図書の交換を行っているアメリカ国会図書館(The Library of Congress)より、この程左記の図書が寄贈された。

The Library of Congress. Introduction to Asia, 1955.

ditto: Chinese Scientific and Technical Serial Publications, 1955.

ditto: Bibliographical Procedures & Style, 1954.

ditto: Current National Bibliographies, 1955.

J.B. Scarborough: Numerical Mathematical Analysis, 1955.

D. Daiches: Critical Approaches to Literature, 1956.

J.B. Stroud: Psychology in Education, 1956.

J. Eaton: The Story of Eleanor Roosevelt, 1956.

E.D. Johnson: Communication, 1955.

G.M. Kahin: The Asia-African Conference, 1955. (出版部)



再度早稲田大学を破る 野球部

東西六大学野球大会は十一月二十五日、日生球場に早稲田大学を迎え対戦、早大は今夏の全日本大学選手権で本学に破れ雪辱の意気盛え、一方本学は大学王者の名にかけ勝利を得んものと互合激しい闘志で終始熱戦を展開。

本学は一回一死一・二塁の危機を切り抜けた後、森田選手が第一球を三塁打を口火に原田選手が二・三後レフト前に快打一点先取、守つては音田投手が七回迄無安打に封じ初回の先取点を守り関東の雄早大を再度にわたつて破つた。

記録 東西六大学野球 於日生球場
早大 0 0 0 0 0 0 0 0
関大 1 0 0 0 0 0 0 0
1

早大 桜井・中山 25 1 0
打安失
関大 音田・前川・上田 30 8 2

陸上競技部

第十八回関西学生駅伝競走大会は、十二月九日、十三校参加のもとに神戸—京都間七十九キロのコースで挙行され、本学は、第一走者の不調で六位でタツチその後各選手は力走に力走をみせ同大、関学等を抜き決勝点平安神宮前に三位でゴールインした。

記録

一位近大 4 時 20 分 50 秒 二位立命 4 時 23 分 31 秒
三位関大 4 時 35 分 36 秒 四位同大、五位奈良学大

レスリング部

第六回全日本学生レスリング王座決定戦は、十一月十八日ニュー・ジャパン道場で東西の覇者明大関大の間で行われ本学は健闘惜しくも九対〇で明大に完敗した。

出場者 フライ小中、尾崎、バンナム西勝、河竹、フエザー岸本、岡本、ライト佐々木、乾、ウエルター字賀

バドミントン部

三十一年度全日本バドミントン選手権は国民体育館で行われ、本学は団体戦、個人戦に出場、団体戦では成蹊大学、関東学院大学、法政大学を順次破りあわや優勝と思われたが、立教大学に破れ三位に甘んじた、又個人戦ではダブルス五組が出場したが四回戦で惜敗、シングルスは準々決勝に小松、渡辺、佐々木、松王、四選手が勝ち進み快調関大と思われたが小松選手が三位にとどまつたのみであつた。

記録 (本学関係のみ) 於国民体育館
団体戦 一位立教大、二位慶応大、三位関西大、四位明治大
個人戦 一位永井 (立教大)、二位片岡 (立教大)、三位小松 (関大)、四位河内 (同大)

小川選手 三位に入賞

第三十四回全国学生相撲選手権大会は十一月十七・十八両日、大阪府立体育館に於て挙行せられ、本学小川選手が全国の強豪と取り組み三位に入賞、団体戦には優秀八校に残り、準決勝で中大を激しく攻めたが3対2で惜敗した。

記録

十一月十七日 個人戦 於大阪府立体育館
準決勝 石黒 (中大) よりたおし小川 (関大)
三位決定戦 小川 (関大) そとがけ鳴海 (日大)
十一月十八日 団体戦 於大阪府立体育館
準決勝 中大 3-2 関大

フエンシング部

第六回全日本学生フエンシング個人選手権大会は十一月十・十一両日明大体育館で行われ、本学から関西代表選手十二名中八名出場、フルーレに中川選手が四位、岸田選手が五位、エツペに岸田選手四位、山本選手が五位、サーブルに立花選手が六位にそれぞれ入賞した。

アメリカンフットボール部

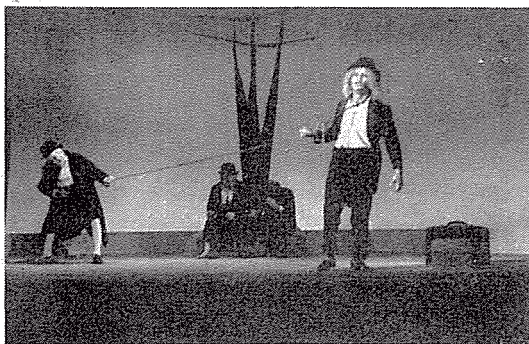
関西学生アメリカン・フットボール・リーグ戦最終日は十一月十一日関学グラウンドで全勝同士の関大—関学戦が行われ、本学は泥海のグラウンドの中熱戦を展開したが健闘惜しく62対0で破れた。

記録

関学 62
13141421
111110
0000
0 関大

学園座公演

学園座創立十周年を記念して、サミエル・ベケット作、安堂信也訳「ゴドーを待ちながら」を十一月三十日夕陽丘会館にて学生、一般の人々、約延一千名余が来館。「ゴドーを待ちながら」は本学が初の公演で二幕、来館の人々は人生に就いてある示唆を得るようなストーリーの熱演であり、好評のうちに幕を閉じた。





校友バツチ

校友総会

昭和三十一年度校友総会は、十二月八日(土)午後一時より千里山第一学舎講堂に於て参会者三百二名をもつて開催。底冷えする気温ではあるが晴天に恵まれた当日清掃なつた校庭に、花に飾られた休憩室(大学ホール)に多数の校友が見うけられ、学内放送が定刻を告げるや一同会場へ参集。正面ステージでは大学ブラスバンドが総会定刻迄、学歌、学生歌、道遥歌等、学窓生活の想出の曲を演奏した。

第一部総会 は、午後二時、宮崎常議員司会で開会を宣し、大月副会長が開会の辞を述べ、次いで岩崎会長の挨拶後、今般学長当選と共にやむを得ざる事情の為会長辞任の事を告げ、引き続き白川理事長より挨拶あり議事に入る、大月副会長が議長席に着き、長柄副会長より事業並びに会計報告の説明、異議なしで承認、中務総務部長より会則改正について説明、校友数氏より質問、要望があつたが、原案通り承認可決。尚常議員、監事の人選方法については越智氏より詮衡委員を五名とし常議員会会務分掌による五部の部長を以て充て併せてその任期も今回に限り残任期間とする提案あり、満場賛成、後任会長の件については満場一致を以て大月仲氏に決定、次で長柄副会長

より本総会出席の支部長並に学校法人新役員の諸氏を報告後、大月新会長の挨拶、次いで校友代表として石川支部長より岩崎前会長に対し謝辞を述べ、大石副会長

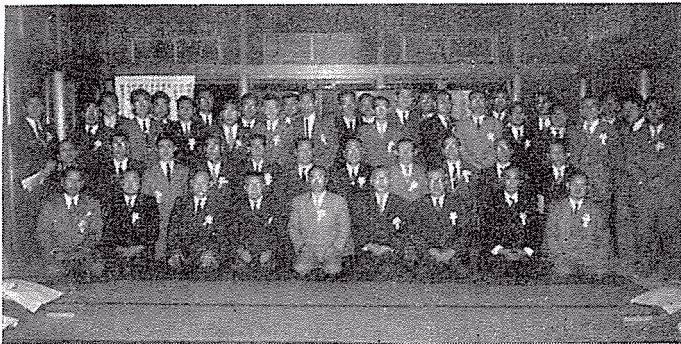


白川理事長の挨拶

の閉会の辞により総会の幕を閉じた。

第二部講演会は、総会の昂奮さめやらぬ中、読売新聞東京本社海外特派員戸川猪佐武氏が拍手の波の中を登壇、海外特派員としての日ソ交渉重光会談の失敗を談じ、鳩山交渉に附行して、思いたるまゝの感想、ソ連国民生活を述べ、一時間余りの講演を終り、次いで岩崎学長が壇上に登り四十分間にわたり、今夏欧米諸国の各大学を視察の為外遊したアメリカ、イギリス、ドイツ、オランダ、イタリア等の欧米諸国の国情を説明すると共に異国の面白い民族性について熱弁を振る拍手

の音はわれんばかりであつた。暮れやすい十二月、あたりはすつかり暗くなつたが、講演終了後、校友は三々五々懇親会の席上第三〇五教室に座を移し、煌々と輝く灯下の下、久しぶりに逢う校友等は、積る話に花を咲かせ、和やかな空気は千里山をつつみ、三十一年度校友総会は午後八時盛大に終了し人々は母校関西大学、関西大学校友会の発展のすばらしさの感に打たれ、学生時代を想いふけつゝ千里山にて散会した。



東京支部総会

剣道部

第四回全日本学生剣道選手権大会は、十一月二十四・二十五両日大阪府立体育館にて挙行。

本学は団体戦、個人戦共出場、団体戦は一回戦で早くも姿を消したが、個人戦では大川選手が全国の強豪を次ぎ次ぎと破りあわや優勝と思われたが法大藤田選手に優勝戦で破れ優勝を逸した。

なお団体戦は滋賀大が優勝、優秀選手として本学関係では鈴木三段が表彰された。

記録(本学関係のみ) 於大阪府立体育館

個人戦

才一回戦大川(関大) コー佐藤(中京大)

才二回戦大川(関大) コー白神(香川大)

才三回戦大川(関大) メー磯部(慶大)

準々決勝大川(関大) コーメ野尻(秋田大)

準決勝大川(関大) メー松原(法大)

決勝大川(関大) メー藤田(法大)

商学研究部

十一月二・三両日、名城大学で行われた第六回全日本学生会計学研究会西日本大会に九名が参加「評論論」の題名のもとに討論会に活発に発言。

又、第十七回全日本学生経営学会西部大会は、十一月二十三・二十四の両日大阪市立大学で行われた。二部経営経済研究部と合同で参加、参加校二十校を数え、一日目総会、個人研究発表会を行い、二日目は討論会、工場見学を行った。

東京支部総会

十一月六日(火)東中野「日本閣」に於て、本学より久井専務理事が出席、会員六十一名参会の下に盛大に総会開催。久々の上京の久井専務理事から本学発展に就て具体的方針を力強く述べ、一同深い感銘の内に会を進めた。

出席者
学校側 久井忠雄専務理事 板橋菊松教授
支部側 田中久雄、矢野三三、本郷桂、小野鷹一、村井義喜郎、四辺明四郎、横松圭大、今野勝久、河合治、中山幸市、畑孝二郎、鈴木康之、中村晴吉、香西政一、新井忠二郎、近藤竜雄、井口一、諏訪富三郎、荻野勉、渡田昇一、山尾義春、田中寿蔵、田中敏雄、高井淳造、沢田勇夫、南出弘、龜井寛、小山八郎、川谷勝哉、多田米蔵、弓削多義郎、丸物彰、秋元東洋男、狐塚正雄、大田宗利、箕浦市郎、片岡弘、吉本英雄、中島利夫、村崎正幸、河西清、吉田有宏、沢渡三重郎、村上誠一、平田儀一、中川啓、上原啓、井上真喜、新田富治、韓行煥、吉岡郁夫、池上勇、高梨研蔵、龜井敏雄、伊藤孝行、甲斐龜夫、安達竹七、堤崎博、野島豊志

備後支部総会

十一月二十四日(土)午後五時から、福山市駅前「加寿美荘」に於て秋季総会を開催。

本学より久井専務理事、安井校友課長が出席、久井専務理事より本学の近況及び将来への発展について述べた後、議事に入り支部規約の承認、役員改選を行い、支部長に河合衛一氏を再選、副支部長に林哲夫、坂口昇、赤松千代史各氏を、幹事に若干名、顧問に金尾建雄、小林和一两氏を推し、その後河合支部長より支部会員八百村稔氏の評議員当選の披露があり地方より選出の数少ない評議員としての同氏の活躍を期待して全員祝福を送った。

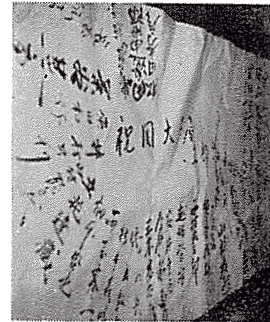
送った。

懇親会に入り安井校友課長より本学近況を「関西大学案内」の写真を掲げ懇切に説明、その発展の有様を思い浮べ。三弦の入るに及び和やかな空気が満ち溢れる中、別れを惜しみつつ、関西大学及び校友会の発展を祝福し、学歌を高らかに唱い、万才三唱をし午後十時散会した。

出席者
学校側 久井専務理事、安井校友課長
支部側 池田弘、奥田孝、金尾建雄、河合衛一、佐藤道夫、坂口昇、谷川律夫、田辺士郎、高田義幸、戸田隆夫、友野広文、林哲夫、三島孝、八百村稔、吉本房造、沢本誠、赤松千代史、高地幸則、筒井密義

芦屋支部総会

十一月二十五日(日)午後五時から、芦屋市大原町「竹園」に於て本学より武田顧問、西村理事、賀屋教授、安井校友課長、校友会神戸支部から山崎支部長が出席し開催。山村支部理事の開会挨拶に引き続き、田辺支部長は関西大学を母校とする喜びと誇りに感謝の念を披瀝し、今後の活躍を力強く誓言した。竹谷支部理事の支部発足以来の経過報告、会計報告の後、西村理事から本学の近況報告、武田顧問から大学に対する将来の希望、賀屋教授から校友各位の協力要望、安井校友課長から校友活動の報告、山崎神戸支部長から当支部の発展を祈る挨拶があり、議事に入る。会則は満場一致で可決。



決。役員は別表の通り決定。懇親会に入り自己紹介、関西大学の映画を鑑賞して

芦屋支部総会

本学並びに支部の万才を三唱して午後九時閉会した。

決定役員

- 顧問 武田蔵之助、賀屋俊雄、下条小野右衛門、越智比古市、岡田親徳、前田軍治、三木基太郎
- 支部長 田辺由治郎
- 副支部長 竹谷裕至、松田秀彦
- 理事 茶谷薫重、小松重次、河野基一、山村康六、加藤信之助、立花達蔵
- 会計理事 山村鶴千代
- 幹事長 藤原仁
- 幹事 松谷輝光、長谷研三、井上清、大江宗治

昭和31年度版を 増補・改訂しました 昭和28年度版を 同窓との親睦連絡に ぜひ御利用下さい

校友名簿

—収載人員二六、〇〇〇余名—
B5判 六〇〇頁
実費頒価五〇〇〇円
(送料当方負担)

申込先 關西大學校友課
大阪府大淀区長柄中通二丁目
振替 大阪 一八七五番

記念植樹申込者(十二月八日現在)

昭六会	ユーカー	三本
西成支部	ユーカー	二本
大阪支部	銀杏	一本
大阪府庁支部	楠	一本
西尾専太郎	山桜	百本
伊丹支部	山桜	二十本
昭三会	山桜	十三本
友粋会	山桜	一本
(昭十三専二商)		
春秋会	ユーカー	三本
千里山十二会	ユーカー	二本
二商同窓会	ユーカー	四本
四三会	山桜	四本
芦屋支部	山桜	二十本
郵政局関大会	山桜	三十本

關西大學 昭和32年度 學生募集

大学院

修士課程 法学、文学、経済学各研究科
博士課程 法学、文学、経済学各研究科

学部

(第一部・昼・第二部・夜)

法学部 法律学科、政治学科

経済学部 経済学科

文学部 英文、国文、哲学、仏文、独文、史学、新聞、東洋文学各学科

商学部 商学科

出願

1月16日より
〔経・文 2月22日まで
法・商 2月23日まで〕

試験

経・文 2月24日 法・商 2月25日

○地方試験 (法・経・文・商 第一部のみ)

試験地 高松・福岡・広島・金沢

出願 1月16日～2月18日

試験 2月24日

○第二部二次試験 (法・経・文・商 第二部のみ)

出願 3月7日～3月22日

試験 3月24日

○学部三年編入 (経・文・商 第一、二部)

出願 3月7日～3月20日

試験 3月23日

○入学要覧 (要50円・8円) 關西大學庶務課へ

大学院・学部第一部 大阪府吹田市千里山
学部第二部 大阪市大淀区長柄中通二

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可
昭和三十一年十二月三十日発行(毎月一回三十日発行)

關西大學學報

第二九八号 十二月号

記念植樹募集

昨秋創立七十周年を記念して施設の拡充を図り、千里山及び天六両学園に近代建築の学舎を完成し得ましたことは洵に御同慶に堪えません。

さて、この構築美に配するに樹木や芝生の景観美を以てし、造園技術の粋をあつめて、教育環境を形成することは、日々これに接する学生達にあるいは憩いの、あるいは思索の場所を与え、学習研鑽の資となるべく、また、学窓を出ては学舎と共に、一本の樹木にも母校への思慕の情を抱かしめるであります。

かかる教育環境形成の重要性に鑑み、本学では植樹造園につとめたいと存じておりますが、また有志の方々からこの趣旨に御賛同下されて樹木の御寄附にあづかり得ば幸甚に存ずる次第であります。

昭和三十一年十一月

關西大學

何卒右趣旨に御賛同を賜わりまして、単価表により樹木御指定の上左記宛御申込下さいます様御願申上げます。

一、樹木単価表

イ、楠	(高さ十尺、巾七尺、太さ目通一尺) 壹本一〇、〇〇〇円
ロ、銀杏	(高さ七尺、巾三尺、太さ目通四寸) 同 三、〇〇〇円
ハ、南豆ハゼ	樹(高さ八尺、巾五尺、太さ目通六寸) 同 六、〇〇〇円
ニ、山桜	(高さ七尺、巾三尺、太さ目通二寸) 同 五、〇〇〇円
ホ、ユーカリ	(高さ八尺、巾三尺) 同 一、五〇〇円
ヘ、メタセコイア	(高さ四尺一五尺) 同 一、五〇〇円

二、記念植樹御申込先

關西大學校友課
大阪市大淀区長柄中通二ノ一二
振替口座大阪 一二八七五番